

# 「安全・安心で、ゆきとどいた教育実現につながる 少人数学級」の実現を求めることについての請願書

## 〔請願趣旨〕

新型コロナウイルス感染防止対策として学校の教室が密集状態になることを避けるとともに、行きとどいた教育を進めるためにも現行40人学級より少ない少人数学級実現は喫緊の課題です。国が必要な措置を速やかにとって、少人数学級を実現するよう要望して下さい。

## 〔請願理由〕

コロナ禍の中で、子どもも学校も多くの不安と心配を抱えています。

今、新型コロナウイルス感染防止対策で、学校教育の現場でも身体的距離の確保が重要です。しかし、40人学級の教室では子どものたちの身体的距離がとれず、「密集状態」となっています。これを避けるためには少人数学級にする必要があります。もともと学校は一人一人の子どもとじっくり向き合い、悩みに耳を傾け、個別の指導をすることが大切であり、現場からは40人学級でなく少人数学級実現の要望が強く出されております。日本教育学会は以前から20人前後の少人数学級が望ましいという見解を示していましたが、コロナ禍で十分な教育を保障するために教員を10万人増やすことと抜本的な教育予算の増額を提案しています。

7月3日には、全国知事会・全国市長会・全国町村会は連名で政府に「少人数編成を可能とする教員の確保」を要望しています。また、7月17日に閣議決定された「骨太方針2020」でも「少人数によるきめ細かな指導体制の計画的整備」の検討を提起しています。

来年度予算編成にあたって、少人数学級に踏み出す予算措置を実現することが、教育関係者の強い要望になっています。こうした状況を踏まえて、国に対して貴議会として意見書を提出していただくよう請願します。

## 〔請願内容〕

国に対して「安心・安全で、ゆきとどいた教育実現につながる小学校、中学校、高校の少人数学級」を速やかに実現することを求める意見書を提出して下さい。

## <意見書提出先>

内閣総理大臣 安倍晋三様  
財務大臣 麻生太郎様  
文部科学大臣 萩生田光一様

